

- 2 エッセイ／“おかね”を語る
計算上手の管理下手 作家、翻訳家、博物学・幻想文学・神秘学研究家 荒俣 宏
- 4 インタビュー／扉を開く
患者の幸福、職員の幸福、地域の幸福
社会保険小倉記念病院院長・医師 延吉正清
- 9 地域の底力——多気町
高校生の力を引き出して
食文化を変える「まごの店」を訪ねて
三重県多気郡多気町
- 16 対談／守・破・創
ウエットな資本主義を基盤に温かい国づくりを進めよう
諏訪中央病院名誉院長・作家 鎌田 実
日本銀行政策委員会審議委員 須田美矢子
- 20 教えて！にちぎん
「金融システムの安定」ってなに？
- 24 貨幣の歴史学
「両」制度の崩壊——幕末の金流出
東京大学大学院経済学研究科教授 武田晴人
- 28 日本銀行のレポートから
「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）— 2009 年4 月—
【基本的見解】
- 34 トピックス
- 35 AIR MAIL from BEIJING
不況脱出の先駆けとなるか？ 中国経済



表紙のことば



日本銀行高松支店は、第二次大戦中の昭和十七（一九四二）年二月、戦局の悪化に伴う現金輸送の困難化などの理由から開設された。当初の店舗は、旧高松城主・松平頼壽氏所有で市の公会堂として使用されていた木造二階建ての「讃岐会館」が充てられたが、昭和二十（一九四五）年七月の空襲時、職員による全身に水をかぶって必死の消火活動にもかかわらず、金庫を除き全焼。一日たりともお金の供給に空白を生じさせないため、店舗焼失翌日には、百十四銀行の一角を間借りして営業を再開したという。二代目の店舗は、不用となっていた旧高松信用組合の建物を終戦の日に受け継いだものである。その後、建物の老朽化が進んだため、昭和五十五（一九八〇）年四月、三代目となる現在の寿町の御影石張りの店舗に新築移転した。なお、二代目の店舗跡地は高松市美術館となり、そのロビーには当時の建物入り口の石組みが今でも遺されている。